

数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)
令和4年度 自己点検・評価 報告書

名古屋文理大学短期大学部
教務委員会(数理・データサイエンス・AI教育ワーキンググループ)報告
自己点検評価委員会 点検・評価・確認

自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	教務委員会に設置されたワーキンググループにおいて、本教育プログラムの履修・修得状況の分析を実施する。令和4年度から「情報リテラシー」科目を必修科目とし、「総合学習」科目に「滋賀大学DS-MOOC講座パッケージ」を取り入れ、「地域課題研究」科目には、「地域のデータ分析」課題を課した。本教育プログラムの申請科目はすべて1年次生の必修科目となり、1年次終了時点で、本教育プログラムを修得することとなる。 令和4年度の学科入学者数 109名 に対し、修了者数は 100名であり、休学者、退学者を除くと修得率100%となる予定である。
学修成果	学科(2専攻)において実施されている申請科目の学修成果について、学生による授業評価における理解度、満足度等の結果をもとに、年度ごとで差異があるかどうか、他の授業科目の理解度(数値化された平均値)との比較を含めて、評価結果を検討している。2専攻すべての受講生に同じレベルの習熟度の達成を目標としており、これを実現するため科目担当者間での検討結果の報告を受け改善への方向を把握する。 ●令和4年度 対象科目の学生による授業評価 ※4段階評価(4.そう思う 3.まあそう思う 2.あまりそう思わない 1.全然そう思わない) 【興味関心】あなたは、授業の内容に興味や関心を持ちましたか 講義科目平均:3.19 総合学習:2.71 地域課題研究:2.92 情報リテラシー:3.18 【学習意欲】あなたは、予習・復習、課題提出などに、この授業に意欲的に取り組みましたか。 講義科目平均:3.05 総合学習:2.89 地域課題研究:2.95 情報リテラシー:3.22 【教材効果】教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題などは効果的でしたか。 講義科目平均:3.43 総合学習:3.05 地域課題研究:3.41 情報リテラシー:3.44 【満足度】全体としてこの授業に満足していますか。 講義科目平均:3.35 総合学習:2.77 地域課題研究:3.31 情報リテラシー:3.36
学生アンケート等を通じた学生の理解度	学生による授業評価アンケートは、全科目、全学生を対象に実施している。学生による授業評価の結果は、個別の科目の結果のみでなく、全体の科目の平均値などの統計データを教務委員会で整理し、毎学期、学内で公開されるので、学生による授業評価の「理解度」の項目を中心に学生の状況を把握している。 受講生の自由記述項目である「良かった点」「改善してほしい点」については、「記述に当たり授業改善に結びつく建設的な意見を記入する」よう指示をし、具体的な改善点を把握し、理解度の向上につなげていく。 令和4年度の「総合学習」で新たに採用した「滋賀大学DS-MOOC講座パッケージ」は、短大学生にとっては難しい内容で、理解度は全体の科目の平均値を大きく下回った。一方、自由記述に「普段自分では学べないことを学べてよかった」という意見もあった。今後は、補足説明等で理解を深める必要がある。 ●令和4年度 対象科目の学生による授業評価 ※4段階評価(4.そう思う 3.まあそう思う 2.あまりそう思わない 1.全然そう思わない) 【理解度】あなたは、授業の内容を理解できましたか。 講義科目平均:3.16 総合学習:2.80 地域課題研究:3.20 情報リテラシー:3.19
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	学生による授業評価アンケート結果は学内に公開(自由記述含む)し、学生全員が閲覧可能である。本プログラムの意味・学修の意義については、新入生オリエンテーションや専用Webサイトにて周知している。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本学では本教育プログラムの申請科目は、すべて必修である。実際の履修者数・履修率の推移を本教育プログラムワーキンググループにて確認していく。 本学の定員充足率は、47%(R5.5.1現在)であり、様式2にある収容定員380名に対する履修率を上げるためには、定員充足率の改善が必要である。 令和6年度から、入学定員を減らす予定である(栄養士専攻(150→120名)、製菓専攻(40→30名)申請中)。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	キャリア支援センターにて全学生の進路・就職先の調査を行っている。本プログラム開始は令和4年度であり、卒業生が社会に出るのは令和6年度以降となる見込みだが、可能な範囲で活躍状況等の調査を実施する予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	今後、短期大学の数理・データサイエンス・AI教育への期待、協業の希望等についてヒアリングを実施し、得られた意見は、今後の地域連携体制の構築や、カリキュラム・教材の改善の参考とする。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	「地域のデータ分析」課題により、興味のある身近なデータをe-Statなどから入手し、Excelを用いて加工・処理をし、データの分析を行い、分析結果を検討するといった実践を通して、データサイエンスを学ぶことの楽しさや意義を学生がより理解できるようにする。 また、データサイエンス・AI分野の最新の動向を紹介することにより、学生の興味・関心を高め、楽しく学ぶことができるようにする。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	学生の修了状況や、課題の解答状況、授業評価アンケートの結果の分析を行い、「分かりやすさ」の観点から教材や授業実施方法の改善策を検討していく。また、教務委員会で、教員相互授業参観の実施や各年度に「学修成果と教育の質向上のための取り組みの報告」を行い、授業の水準の維持・向上を図る。